

VU (絶滅危惧Ⅱ類)

ザルガイ目 ニッコウガイ科

カテゴリー判定基準：①, ②

ヘラサギガイ

Tellinides timorensis Lamarck, 1818

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	—	—

基礎情報

殻長50mm程度の横長卵形の扁平な二枚貝類で、薄い殻皮を被るが、淡白色で光沢がある。沖縄島～西表島およびフィリピン、東南アジアに広く分布し、内湾及び河口域の中潮線の砂泥底～泥底に生息する。奄美大島では記録が無く、久保（2012）の分布域は記載ミスである。

分布域、生息地の現状および存続を脅かす要因

ニッコウガイ科の中でもっとも陸に近い環境に生息域をもつ種のひとつで、沖縄島中南部では埋め立て（14）により、生息場所が消失し、多くの個体群が死滅した。底質上のデトリスを吸い取って摂食すると考えられ、無機質の赤土微粒子が大量に堆積（31）すると悪影響を被ると考えられる。沖縄島中南部や北部東海岸では1990年代前半まで豊産する場所があったが、現在は著しく減少した。なお、2010～11年現在、沖縄島羽地内海や西表島等大規模な干潟奥部には多産地が局在していることが確認されている。

参考文献

久保弘文, 2012. ヘラサギ. 日本ベントス学会 (編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック, p.130. 東海大学出版会, 秦野.

名和純, 2009. 琉球列島の干潟貝類相 (2) 沖縄および宮古・八重山諸島. 西宮市貝類館研究報告, (6): 1-81, pls 1-20.

沖縄県, 2005. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 (動物編) -レッドデータおきなわ-. 沖縄県文化環境部自然保護課, 那覇. 561pp.

執筆者: 久保弘文 (沖縄県水産海洋技術センター)

ザルガイ目 シジミ科

カテゴリー判定基準：①, ②, ④

マシジミ

Corbicula leana Prime, 1864

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	—	NT

基礎情報

殻長20mm前後までの個体が多いが、最大50mm程度にまで成長する。殻表面は黄褐色から黒褐色を呈し、淡色の個体では濃色の不規則な斑紋が見られるが、生息地、生息環境の違いによる変異が著しく、かつては複数の亜種・型が記載されたが、現在は、琵琶湖・淀川水系の固有種セタシジミ (*C. sandai*) 以外は、淡水産の在来シジミはすべてマシジミとされている。本州、四国、九州に広く分布するが遺伝的変異に乏しく、古い時代に人為的に持ち込まれた種である可能性もある。自然湖沼、河川、水路、ため池などの純淡水域に生息するが、ヤマトシジミ (*C. japonica*) のように漁業資源としては重要視されていない。

分布域、生息地の現状および存続を脅かす要因

身近な生息環境である水路、ため池など水田周辺水域は圃場整備（15-2）によって大規模に改変され、乾田化が進むことで本種の生息環境が大規模に失われている。また、温暖な地方では、近年、外来のタイワンシジミ (*C. fluminea*) 種群の侵入が相次ぎ、それと競争的に置換されることが新たな脅威となっている（56-1）。このような傾向を反映して、地方版レッドデータブックでは14都府県で、絶滅危惧種または準絶滅危惧種として扱われている。

参考文献

増田 修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類. ビーシーズ, 東京. 240pp.

執筆者: 中井克樹 (滋賀県立琵琶湖博物館)